

彙報

第七回総会および研究集会

木簡学会第七回総会と研究集会は、一九八五年二月七日・八日
両日、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、約一四〇名の参加者を得て開催された。会場には平城宮跡、平安京跡、柚井遺跡(三重)、西河原森ノ内遺跡(滋賀)、神明原・元宮川遺跡(静岡)等出土の木簡や、飛鳥京跡出土木簡の写真が発掘関係機関の協力を得て展示され、関心をよんだ。

◇二月七日(土) (午後一時～五時三〇分)

第七回総会(議長 林 紀昭氏)

最初に岸俊男会長が挨拶に立ち、情報収集に関する会員の協力要請と、保存処理の重要性に対する提言があったあと、林紀昭氏を議長に選出して議事に入った。

会務・編集報告(鬼頭清明委員)

一年間の活動と現状につき、会員は新入会員一七名を加えて二八〇〇円、送料四〇〇円と決定したこと等の報告があり、承認された。

会計報告(岩本次郎委員)

一九八四年度の収支について説明があり、ひきつづいて関見監事より会計執行は正当である旨の会計監査報告があつて、異議なく承認された。

研究集会(司会 狩野 久氏)

中国簡牘研究の現状

李 学勤

木簡と紙との接点

藤枝 晃

李氏の発表は本誌に収載した。藤枝氏の発表は、欧州所在の敦煌・トルファン資料の調査をふまえ、木簡と紙の使い分けや木簡と写経の寸法との共通点を論じられたものである。

研究集会終了後、グリル友楽で懇親会が開かれた。

◇二月八日(日) (午前九時～午後三時三〇分)

研究集会(司会 佐藤宗諱・原秀三郎氏)

一九八五年出土の木簡

館野和己

柚井遺跡出土木簡補考

柴原永遠男

飛鳥京跡出土の木簡

亀田 博・岸 俊男

館野報告は、一九八五年に出土した木簡と八四年以前出土で未報告の木簡をとりあげたものである。柴原報告については本誌を参照されたい。なお館野報告に関連して、参加された関係者から神明原・元宮川遺跡(静岡)、西河原森ノ内遺跡(滋賀)、平安京、下野国府(栃木)についての追加報告があつた。

昼休みをはさんで行われた亀田・岸報告は、『日本書紀』天武・持統紀の記事に関連するとして話題を呼んだ木簡に関するものである。

各報告については、いずれも活発な質議討論があり、総括討論で締めくくった。また昼休みには、平城宮第一六九次の調査で出土した大嘗宮の遺構を見学した。最後に平野副会長より挨拶があり、参加者への謝辞とともに、新入会の申込みは九月末までに手続きを終えてほしいこと、一層の情報収集をめざすべきことなどの伝達・提言があつて会を閉じた。

委員会報告

◇一九八五年二月七日(土) 於奈良国立文化財研究所

総会に先立ち、新入会員四名の承認、会務・編集の状況、総会・研究集会の運営等について検討が行われた。席上、新入会の申込みは九月末必着、一〇月の委員会で承認の運びとし、一二月の委員会では新入会員の承認を議題としないことが決定された。また各地で情報収集にあたる人材を確保することが話題となった。

◇一九八六年六月五日(木) 於奈良国立文化財研究所

新入会員九名の承認、一九八五年度の会計報告の他、『木簡研究』八号の編集、八六年度総会・研究集会の予定について討議した。

◇一九八六年一〇月二七日(月) 於奈良国立文化財研究所

新入会員四名の承認、会務の現状、一九八五年度の会計、八六年度前半の会計、会誌八号の編集状況、総会・研究集会の日程等が討議された。また次期委員についても検討され、六五歳定年を実施し、委員が在任中六五歳に達した時は任期切れを以て引退するという方向で議論された。また地方公共団体保管の木簡については、憂慮すべき保存状態にあるものもみられるので、早急に学会として対策に取り組んでゆくことが確認された。